

1 気象概況 (10月前半、果樹研究所)

平均気温は、1半旬が19.9℃で平年より2.1℃高く、2半旬が19.3℃で平年より3.1℃高く、3半旬が17.4℃で平年より1.5℃高く経過しました。1～3半旬の降水量は77.0mmで平年比124%と平年より多く、日照時間は64.3時間で平年比84%と平年より少なく経過しました。

2 土壌の水分状況

10月14日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで1.6、深さ40cmで1.7、深さ60cmで2.0となっており、土壌表層はやや過湿状態にあります(図1)。

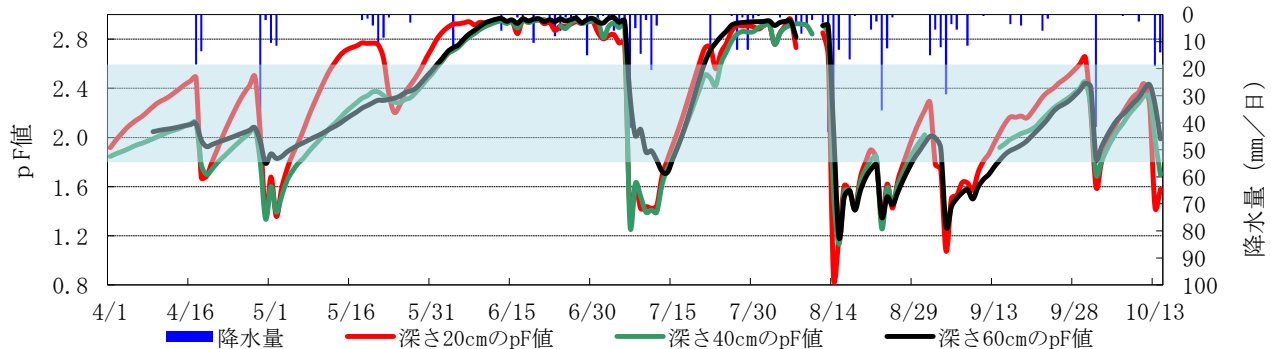


図1 土壌 pF 値の推移 (果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)
 図中の網掛け部は、適湿の範囲 (pF1.8-2.6) を示します。

3 発育状況 (10月15日現在、果樹研究所)

(1) りんご

ア 果実肥大

暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が85.1mmで平年比104%、横径が92.6mmで平年比104%と平年並でした。満開後日数の体積指数で比較しても平年並でした。

イ 「ふじ」の成熟状況

「ふじ」の満開後176日(10月12日)の成熟調査では、硬度は12.4lbs.で平年より低く、デンプン指数は3.8で平年よりやや低くなっています(図2、図3)。果皮に含まれるクロロフィル含量は平年より高く、アントシアニン含量は平年より低くなっています(図4、図5)。

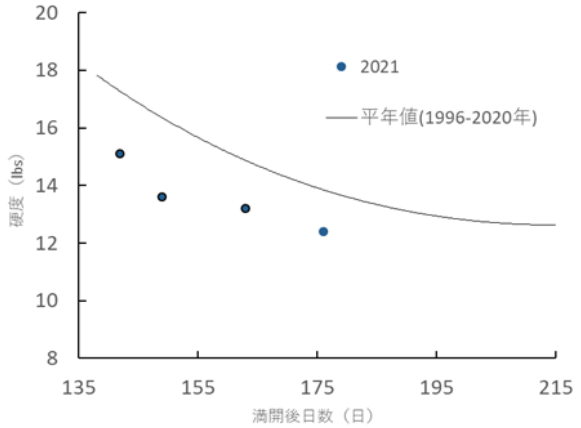


図2 「ふじ」の果肉硬度の推移

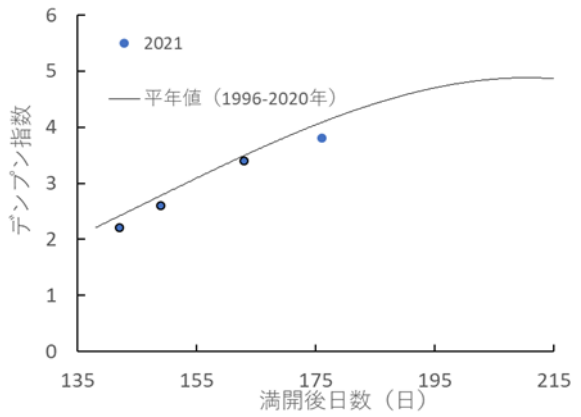


図3 「ふじ」のデンプン指数の推移

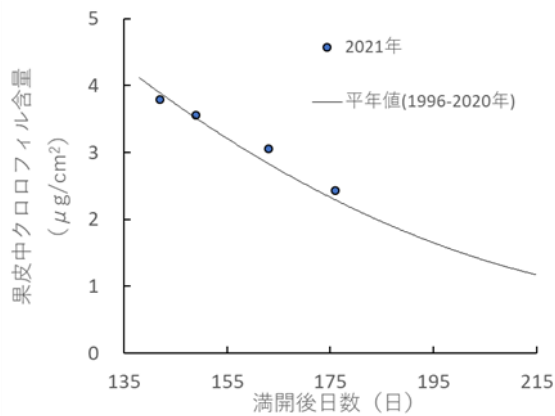


図4 「ふじ」のクロロフィル含量の推移

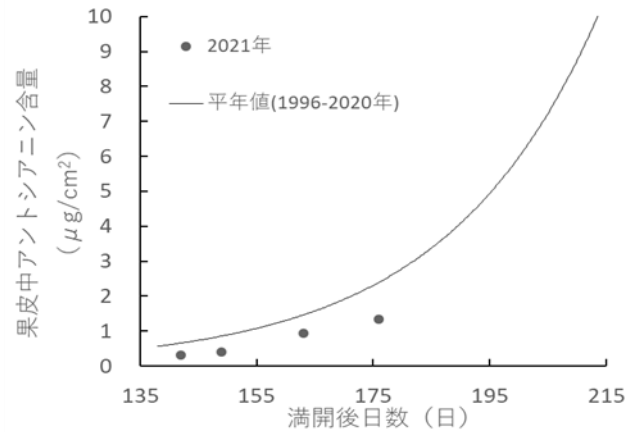


図5 「ふじ」のアントシアニン含量の推移

ウ 「ふじ」の裂果発生状況

「ふじ」/マルバ台果実の満開後 176 日（10 月 12 日）における外部裂果発生率は 26.7%、内部裂果発生率は 50.0%でした（表 1）。

表 1 「ふじ」の裂果発生状況

調査樹	樹齢	外部裂果発生率 (%)				内部裂果発生率 (%)			
		2021年	2020年	2019年	2018年	2021年	2020年	2019年	2018年
ふじ/マルバ台	19	26.7	40.0	10.0	0.0	50.0	63.3	53.3	50.0

気象庁 [営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

4 栽培上の留意点

(1) りんご

ア 「ふじ」の収穫前管理

摘葉、玉回しは遅れないように実施しましょう。

イ 「ふじ」の収穫

収穫に当たっては、蜜入りの状態に加えて、果実の着色、地色及び食味等により総合的に判断しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア モモせん孔細菌病

今後の降雨により新梢への感染が懸念される状況にあるため、秋期防除を確実に実施し、越冬菌密度の低下を図りましょう。3回目の秋期防除をまだ実施していない場合は、表2のいずれかの薬剤を選択し十分量を散布しましょう。

表 2 モモせん孔細菌病の防除薬剤

作物名	対象病害虫名	薬剤名	希釈倍数
モモ、ネクタリン	せん孔細菌病	ICボルドー 4 1 2	30倍
		コサイド3000 (クレフノン 100倍加用)	2,000倍
		ムッシュボルドーDF (クレフノン 100倍加用)	500倍
モモ	せん孔細菌病	4-12式ボルドー液	—

※農薬の使用に当たっては、最新の登録内容を必ず確認すること。

イ なし黒星病

秋期防除は、翌年の伝染源となるりん片への感染を予防するのに重要です。特に、りん片生組織の露出（図6）が多くなる時期（昨年の果樹研究所では10月中旬～11月上旬）が重要な防除時期となります（図7）。薬剤散布は、オーソサイド水和剤80を600倍に希釈し、2週間間隔で2～3回散布（キャプタンの総使用回数に注意）し、最終散布は落葉率80%ごろを目安に防除を行いましょう。なお、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、薬液が棚上まで分量かかるよう丁寧に散布しましょう。

また、先端部付近はりん片生組織の露出が早く、感染の可能性が高いと考えられるため、冬季のせん定では先端部の切り戻しを徹底しましょう。

さらに、病原菌は罹病落葉でも越冬し、翌年の重要な伝染源となるため、落葉処理も併せて実施しましょう。



図6 露出した芽りん片生組織（枠内）

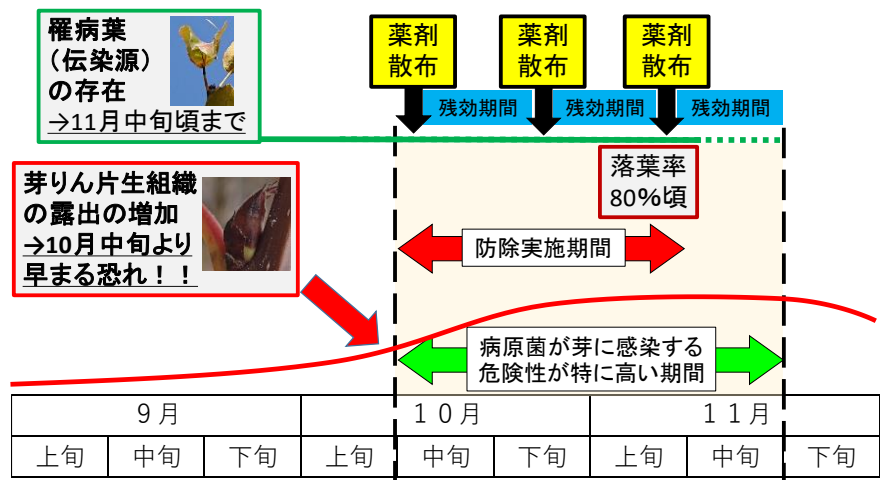


図7 なし及び病原菌の生態に基づく秋期防除の考え方

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行: 福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>